

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年3月)
~2ヶ月連続の黒字~

発表日2009年5月13日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		原数値 経常収支 (億円)						季調値 経常収支 (億円)					
		貿易・サービス収支				所得収支		貿易・サービス収支				所得収支	
		貿易収支		サービス収支		所得収支		貿易収支		サービス収支		所得収支	
		前年比	前年差	前年比	前年差	前年比	前期比	前期差	前期比	前期差	前期比	前期差	
07	7月	18515	4.3	▲ 30.7	▲ 19.4	▲ 155	24.6	19929	0.9	5.2	8.3	▲ 101	0.8
	8月	20811	42.1	316.2	180.1	▲ 435	7.3	21539	8.1	28.0	27.9	▲ 252	▲ 9.1
	9月	29259	42.5	77.1	59.9	378	16.0	23574	9.4	▲ 1.2	▲ 10.4	647	21.3
	10月	22065	44.2	97.6	50.4	385	21.8	25673	8.9	▲ 1.5	13.5	69	3.2
	11月	17058	▲ 2.3	▲ 16.8	▲ 12.1	▲ 343	15.2	19965	▲ 22.2	▲ 28.8	▲ 17.2	▲ 771	▲ 16.5
	12月	15891	▲ 10.8	▲ 33.0	▲ 18.2	▲ 1164	19.4	17960	▲ 10.0	▲ 60.2	▲ 38.5	▲ 678	22.7
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18058	0.5	111.1	24.7	531	▲ 12.9
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15546	▲ 13.9	▲ 53.8	▲ 39.3	187	4.3
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18523	19.1	52.9	35.9	▲ 323	5.1
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	16341	▲ 11.8	26.9	▲ 9.9	1338	▲ 13.2
	5月	19804	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.5	18940	15.9	9.5	26.8	▲ 114	3.6
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14168	▲ 25.2	▲ 80.8	▲ 63.4	▲ 976	11.1
	7月	15318	▲ 17.3	▲ 93.5	▲ 69.8	1133	9.6	15315	8.1	赤字	59.4	1391	▲ 7.7
	8月	9888	▲ 52.5	赤字	赤字	1004	▲ 5.1	9257	▲ 39.6	赤字	赤字	▲ 723	▲ 5.7
	9月	14979	▲ 48.8	▲ 94.0	▲ 86.0	92	4.7	13441	45.2	赤字	赤字	257	8.1
	10月	9605	▲ 56.5	赤字	▲ 87.2	122	▲ 16.3	12056	▲ 10.3	赤字	▲ 6.6	162	▲ 7.7
	11月	4991	▲ 70.7	赤字	赤字	▲ 588	▲ 15.5	5384	▲ 55.3	赤字	赤字	▲ 627	▲ 5.1
	12月	1254	▲ 92.1	赤字	赤字	▲ 21	▲ 27.8	5570	3.5	▲ 29.0	▲ 47.4	▲ 1391	▲ 13.2
09	1月	▲ 1728	赤字	赤字	赤字	▲ 42	▲ 31.5	2580	▲ 53.7	36.1	99.9	925	▲ 6.0
	2月	11169	▲ 55.6	▲ 94.3	▲ 80.4	▲ 478	▲ 34.1	6734	161.0	▲ 61.4	赤字	▲ 396	▲ 0.3
	3月	14856	▲ 48.8	▲ 91.7	▲ 89.3	170	▲ 13.0	9023	34.0	▲ 18.8	67.5	306	24.7

(出所) 財務省「国際収支状況」

○3月の経常収支は前年比▲48.8%

3月の経常収支は前年比▲48.8%の1兆4,856億円(原数値)と、コンセンサス(同1兆2,100億円)を若干上回った。経常収支は1月に赤字となったが、その後は2ヶ月連続で黒字に戻っている。貿易収支は、海外での在庫調整の進展などにより、輸出の減少率が6ヶ月ぶりに縮小したことで、2ヶ月連続で小幅黒字となった。所得収支については、直接投資収益の黒字幅が拡大したことから、前年比でのマイナス幅は縮小した。

○貿易収支は2ヶ月連続で黒字

経常収支の内訳をみると、貿易収支は1,329億円(前年比▲89.3%)と前月に続き黒字となった。中国を中心とした景気対策の効果や世界的な在庫調整の進展などにより、輸出は前年比▲46.5%と、前月(同▲50.4%)に比べて減少ペースが鈍化したことが影響した。

サービス収支は▲342億円(前年比▲33.2%)と、5ヶ月ぶりに赤字幅が縮小した。世界的な景気後退や貿易量の縮小により、「輸送」及び「旅行」の赤字幅の拡大は続いているものの、「その他サービス」の黒字幅が拡大したため、全体として赤字幅は縮小した。

所得収支は1兆7,041億円(前年比▲13.0%)と、6ヶ月連続で前年割れとなったが、前月からマイナス幅は縮小した。「証券投資収益」は、海外金利の低下などにより、前月に続き「債券利子」及び「配当金」の受取が

減少したことから黒字幅は縮小したが、「直接投資収益」は、海外子会社からの配当金の受取が増加したことで、4ヶ月ぶりに黒字幅が拡大した。

○先行き経常収支は緩やかに持ち直す見込み

経常収支の先行きについて展望すると、まず所得収支に関しては、海外子会社の業績悪化、金利の低下などから、今後も証券投資収益を中心に黒字額の減少が続くと予想される。

次に貿易収支は、輸出の減少ペースが緩和し始めたことで、緩やかな持ち直しに転じるだろう。4月上中旬の輸出は前年比▲42.6%と、前月に比べ減少率は縮小しており、輸出の急速な減少には歯止めがかかりつつある。また、輸出に先行する米ISM、OECD景気先行指数などの指標もここにきて下げ止まりの兆しが窺える。極めて低水準ではあるものの、輸出は今後持ち直す可能性が高い。

以上を踏まえると、先行き経常収支は低水準ながら、緩やかに持ち直すことが予想される。

